

## 令和5年度第1回白河市子ども・子育て会議 会議録

日 時： 令和5年8月25日（金） 午後2時

場 所： 白河市役所 4F 全員協議会室

出席者： 鈴木栄一会長、水上泰真人委員、渡邊証之委員、十文字律子委員、十文字光伸委員、根本茂委員、野村恵子委員、佐藤慎一委員、十文字洋子委員、樋口葉子委員、永野美代子委員、浅賀秀寿委員（12名）

### ●令和5年度第1回白河市子ども・子育て会議

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 協議

(1) 白河市子ども・子育て計画の中間年見直しについて

事務局より、白河市子ども・子育て計画の中間年見直しについて、資料説明

⇒委員からの意見は、無しで承認された。

(2) 「白河市子ども・子育て計画」の進行管理について

事務局より、「白河市子ども・子育て計画」の進行管理について、資料説明

(拡充事業のP. 2地域子育て支援拠点事業、新規事業のP. 3白河っ子・家事育児サポート事業、P. 8小学校入学祝金支給事業等)

委員：P. 4の、放課後こども教室推進事業について、家庭の事情で習い事に通わせられない家庭もあるため、もっと沢山の学校で定期的に行ってほしい。今後どのような計画があるか。

事務局：ボランティアを中心に活動しているが、人手不足やコロナで事業を中止しているところもあり、現在は1箇所のみで実施している。各学校でどうすれば実施できるかを検討課題として、進めて行きたい。

委員：中学校の、部活の外部コーチと同じではないか。ボランティアではやりきれ

ない。予算がつくと、もっと活発になるのではないか。次に、P. 5の、スクールカウンセラー（SC）事業について、SCの人選は、どのようにされているか。SCが必要な家庭は、切実な課題を抱えているため、SCの質やスキルで人生が変わってしまうほどの影響があることもある。SCは重要なポジションである。SCについて、アンケート実施や選定する基準はあるか。

事務局：全国的に不登校が増加しており、本市でも同様である。SCは重要な存在である。市内小・中学校のSCは、福島県教育委員会（県教委）と福島県臨床心理士会（県心理士会）が協議して、30名程度任用された臨床心理士である。県心理士会や県教委主催の定期的な研修を受けたり、配置されている学校長との年3回の面談を通して、質やスキルの確保に努めている。カウンセリング実施後は、SCに任せきりにせず、カウンセリングの内容について、SCと学級担任、学年主任、管理職と共有している。場合によっては、SSW（スクールソーシャルワーカー）、児相職員、教育委員会（教委）が個別のケース会議に出席して、様々な視点から、学校としての支援策を検討している。SCのアンケートは、毎年、学校を対象に実施し、SC活用の成果や課題について、教委で把握している。教委が直接アンケートを取っている訳ではないが、カウンセリングを受けた児童や保護者からのアンケート意見は、各学校を通して、教委に報告されており、SCの配置の参考にしている。

委員：小学校のSCは良かったが、中学校のSCはちょっと…、という意見があった。特定のSCを非難するアンケートはあげにくいことだと思う。ハガキ等で直接感想を教委に届けられるような方策があるといいのではないか。次に、P. 21の乳幼児健康診査について、5, 6年前に、健診を受けて、嫌な思いをした母親の意見を聞いた。発達の検査は、マニュアルに縛られていないか。いきなり知らない人の前で遊ぶことは、できない子どももいるが、できないと×になる。積み木が積めなかったり、絵本に出て来る動物がたまたま答えられないこともある。ゆとりや余地のある検査に

なっているか。自由に子どもが遊んでいるところをみる検査はできないか。

事務局：積み木や絵本を用いた検査は、1歳6か月児健診より実施している。健診の流れは、小集団7、8名が、まず言語聴覚士から、10～15分の講義を聞いて、次に親子遊びをもうけてから、実際に問診で積み木を積んでもらう流れである。健診では、言葉が出ているか、視線が合うか、動作を真似るかの確認と、運動面で、積み木を上手に積めるか、指先の動きを見るかたちで行っている。できないからといって、できないという判断をしている訳ではない。医者との診察や待ち時間の様子なども見させていただき、全体的な様子を保健師の間で共有させていただいている。できなかった時は、次の2歳児健診でもう一回確認させてほしいと保護者に伝えている。親子で遊ぶ時間も確認させていただいている。

委員：P.22の予防接種について、予防接種は「任意」という大前提があるが、「必ず」しなくてはいけないというニュアンスで伝わることがある。誤って虐待と捉えられないようになっているか。新型コロナウイルスワクチン（コロナワクチン）は、どのように進められているか。大人より、子どもの方が副反応のリスクが高いと、気にされている家庭もある。

事務局：担当課の健康増進課の回答では、「コロナワクチン接種後の副反応等については、国の動向やデータを市民に公表する。また、接種については、これまで同様本人及び保護者の意向を尊重したうえで進めていく」としている。

委員：福島県と郡山市のHPでは、副反応の受付について掲載されている。救済の窓口があれば、注意喚起になるのではないか。8月21日、厚労省より、コロナワクチン接種後に、10代で死亡認定された事例があった。リスクを伝えながら、進めていただきたい。

委員：P.25の白河っ子応援事業について、すこやか相談会は終了か。

事務局：P.25、37の、すこやか相談会の終了については、記載の誤りである。

令和5年度も、すこやか相談会は実施している。

委員：すこやか相談会で、お母さん方は、保健師さんを頼りにしている。また、幼稚園や保育園に来ていただいて、子どもを見ていただくことを、とても嬉しいと言っているのので、継続は嬉しく思う。P. 8の、白河っ子すくすく応援クーポン券支給事業（クーポン支給事業）について、令和5年度から、0歳児へのクーポンがなくなったのは、なぜか。

事務局：0歳児へのクーポンを廃止した理由は、令和4年度から、P. 8の、白河っ子出産・子育て応援ギフト支給事業が始まり、妊娠時期から5万円、出産時に5万円給付するなど、国の事業が手厚くなったためである。クーポン支給事業は、平成30年度より0歳児を対象に実施している。平成31年度からは、対象を1歳児にも拡充し、更に令和4年度からは、2歳、3歳児まで3万円分のクーポン券を配布し、大変好評をいただいているが、財源を活用して、手厚くなった国の事業との見直しを図った。お金が必要になる小学校などの子どもの成長段階に合わせて、P. 8の、小学校入学祝金支給事業の5万円に振り替えるため、0歳児のクーポン券廃止について判断させていただいた。

委員：支援が手厚くなったということ、廃止だけではなく、もっとお母さん達に分かってもらえるようにお話していきたい。次に、P. 20の「ひなんの家」等防犯ボランティア活動の支援について、①ステッカーは何枚配布したか。②ステッカー配布の効果はあったか。③実際避難した子どもはいるのか。④避難の家の場所について、子どもは分かっているか。

事務局：担当課の生涯学習スポーツ課からの回答では、①現在のステッカー配付枚数は、887枚である。②ステッカー配布により、地域ぐるみで子どもを見守るといふ意識が生まれ、地域の防犯に対する姿勢をアピールすることで犯罪の抑止に繋がる効果がある。③現在まで各学校やひなんの家から、実際に避難した子どもがいるとい

う報告はない。④「ひなんの家」の場所については、学校の安全教室の際に警察署と連携し、子どもたちにステッカーの説明を行い、PTA 総会等で保護者に説明し、家庭でも子どもとの話し合いの場を設けている。今後も継続的な支援に努めていく。

委員：SCについて、SCに言われて、お母さん達が辛い思いをしたことを学校に言えない場合、教委へ直接連絡することもありか。

事務局：学校の管理職でも厳しい場合は、保護者から連絡をいただければ、教育委員会を通して、SCや学校に伝えることができる。

## 5 その他

- ・ 次回の第2回会議は、令和6年の年明けに開催予定。議題は、第3期白河市子ども・子育て計画のニーズ調査についての説明。
- ・ 保健福祉部長より、7月24日に、白河市少子化対策会議を立ち上げ、今後、若い世代の意見を集約し、施策立案を進めていく旨委員に説明した。

## 6 閉会